



本館上空から夏油方面をドローンで撮影



## つちのとい 「己亥」の年迎えて

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 笹 田 昭 市

早春の候、同窓会員の皆様には御健勝で御活躍のこととお喜び申し上げます。

今年は「十二支（じゅうにし）」の中の「亥（いのしし）」の年ですが、正確には「己亥（つちのとい）」の年となるそうです。

普段よく「十二支」のことを「干支（えと）」と言っていますが、本来の「干支」とは「十二支」と「十干（じっかん）」を組み合わせたものだそうです。

「十二支」は、「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・羊・猿・酉・戌・亥」です。「十干」とは、五行である「木・火・土・金・水」を、それぞれ兄（え／陽）と弟（と／陰）に分けたものです。木＝甲（きのえ）・乙（きのと）、火＝丙（ひのえ）・丁（ひのと）、土＝戊（つちのえ）・己（つちのと）、金＝庚（かのえ）・辛（かのと）、水＝壬（みずのえ）・癸（みずのと）となります。十二支と十干の組み合わ

せは 60 パターンあり、60 年かけて干支を一周すると「還暦（かんれき）」を迎えます。

日本は自然災害が多い国ですが、その中でも大きい災害が起こっているのが亥年です。大正 12 年の関東大震災、昭和 10 年の三陸沖北部地震、昭和 22 年のキャサリン台風、昭和 34 年の伊勢湾台風、そして最近では平成 7 年の阪神淡路大震災です。

60 年前の「己亥」年である昭和 34 年は、現天皇陛下が皇后陛下と御成婚なされた年でした。当時小学 2 年生だった私は、白黒テレビで馬車でのパレードの中継を見た記憶があります。今年、天皇陛下は退位され、上皇陛下となり、皇太子殿下が天皇陛下となられます。

「己（つちのと）」は農業と関係する土の年で、「亥（いのしし）」には無病息災を祈る意味があるとされています。今年は、災害が少なく、農業関係者にとって良い年となりますように祈っています。



## 同窓会報に寄せて

岩手県立農業大学校

校 長 高橋 則 光

本校は、昭和 56 年（1981 年）に創立され、今年 4 月で 39 年目を迎えます。これまで本科、生物工学科、研究科を合わせて 2,900 名の方々が卒業され、その多くが各地域のリーダーとして活躍されており、同窓会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の推進に多大なる御支援と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、今年度を振り返ってみますと、本科 1 年生は 15 日間の県内の先進農家派遣実習で、農業現場を肌で感じながら実践力を磨き、2 年生は本校との研修が 30 周年となるカリフォルニア大学等での海外農業研修で国際的な視野を養いました。また、11 月開催の元気の出る農業セミナーでは、同窓生の嵯峨裕紀氏（盛岡市）、新規就農者研修修了生の馬場一輝氏（北上市）のお二人から、夢と経営戦略について講演をいただき、学生たちは農業への熱い思いを大きく膨らませました。

さらに、いわてフラワーコンテスト 2018 において花き経営科の学生が栽培した鉢物りんどうが特別賞を受賞、平成 30 年度県獣医畜産業績発表会で肉畜経営科学生が奨励賞を受賞したほか、東日本農業大学校等意見発表会で花き経営科学生が最優秀賞を受賞するなど、多くの学生が日頃の学習成果を存分に発揮しています。

また、東北 5 県の大学校親善球技大会で、女子バレーボールチームが 2 年連続優勝したほか、いわて林業アカデミー研修生とのスポーツ大会などで交流の輪を広げました。さらに、学生実行委員会が企画・運営する農大祭では、「‘育’ 未来に続く鼓動」のテーマのもとで、農畜産物直売、学習紹介や多彩なステージイベント等で多くの来場者から好評をいただくなど、学生の主体的な取組が大きな実を結んでいます。

そして、今春卒業予定の 41 名の進路は 1 月末までに 98% が確定し、自家就農や農業法人への雇用就

農のほか、農業団体や農業関連企業への就職で 30 名が地域農業の担い手やパートナーとして巣立つこととなりました。今年も多く多くの学生が地域に帰り、本校で習得した知識や技能を生かすことができる仕事に就き、地域活性化の担い手として歩んでくれることは、とても心強く感じているところです。

今日の農業・農村は、従事者の高齢化・減少に加え、グローバル化や情報化が進展し、社会・経済環境の変化スピードが加速してきています。こうした急速かつ多様な変化への対応が求められる中で、農業に関する高度な知識と理論に裏付けられた実践力を発揮し、現場で改善や革新をリードしていくことのできる人材育成がますます重要になってきています。

こうした状況を踏まえて、本校では、より良い農業のやり方を目指す「国際水準 GAP」や、生産性向上を図る「スマート農業」に関する教育内容の充実を図るため、今年度から新たなカリキュラムの導入や施設整備等に取り組んでいます。

今後とも時代に即した教育・研修の充実強化に職員一同努めてまいりますので、同窓会の皆様の変わらぬ御指導、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、同窓会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げ、挨拶といたします。



米国カリフォルニア州への海外農業研修  
（ゴールデンゲートブリッジにて）

—新たな旅立ちにあたり—

## 今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿



秋田を元気にします！

農産経営科 2年 伊藤 悠人

私は農産経営科に所属し、多くのことを勉強することができました。

私が農業大学校に入学した理由は中学時代に稲作に興味を持ち、もっと深く勉強したいと思ったからです。学校生活や寮生活は、個性的な人たちばかりで毎日楽しい時間を過ごすことができました。

卒業後は盛岡市の肥料を扱う会社に就職します。就職先で一生懸命頑張り、いずれは私の地元（秋田）の農業の活性化に貢献していきたいと思います。



大切な仲間との2年間

農産経営科 2年 冨手 嘉斗

入学してからあっという間の2年間でした。主に稲作栽培について学びましたが、他の経営科の友人も多くでき、農産経営科以外の実習や授業内容を聞く機会も多く、大変勉強になりました。農大でできた仲間というのは卒業後も大切な存在となることから、これからも仲良くしていきたいです。

卒業後は、北上市機械化農業公社に就職します。農業大学校で学んだことを活かして一生懸命頑張りしたいと思います。



農大での学びを糧に  
高みを目指して

野菜経営科 2年 佐々木 祐輔

私は卒業後、宮城県の東松島市にある(株)イグナルファームに就職が決まっています。イグナルファームは、トマト、きゅうり、いちご、長ねぎの栽培をしているところです。4月から私がどの品目を担当するかは分かりませんが、とても楽しみにしています。私が農大での2年間で学んだことをイグナルファームで必ず生かし、自分の力を大いに発揮し、そして、活躍できるよう日々を大切にしながら頑張っていきたいと思います。



新たな旅立ち

野菜経営科 2年 向久保 百花

私は、北上市機械化農業公社に内定を頂きました。説明会の際に「これから女性が活躍できる農業にしていくために、向久保さんには頑張ってもらいたい」という言葉をかけてくださいました。正直、女性の少ない職場環境に飛び込むのは不安ですが、今まで農大で学んできた野菜栽培の経験や持ち前の元気を武器に、女性が活躍できる農業を目指して頑張りたいと思います。



これからの人生

果樹経営科 2年 伊藤 誓真

私は卒業後、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の一員として働きます。

様々な部門がありますが、今まで学んできた果樹を専門とする所で働きたいと願っています。

農大では実際の農業に近いところでしたが、就職先では農業をする人々をサポートする仕事が多くなるので、自分が好きな農業に携われる事を感謝しつつ、精一杯努力し、今後の農業をサポートし、社会に貢献していきたいと思います。



未 来

果樹経営科 2年 立花 奎太

私は北海道帯広市出身の非農家です。そんな私が岩手県の農業大学校に来た目的は無農薬栽培リンゴを作ることでした。そして、卒業研究では夢を叶えることが出来ました。卒業後、奥州市江刺にある菅野農園さんに就職し、さらに果樹栽培を学びます。

将来、私は地元に戻り農業を始めたいと考えています。一から農業を始めるので不安もありますが、農業大学校で学んだことを経営で活かせるように日々努力して行きたいと思います。



### 就農するにあたって

花き経営科 2年 **伊藤 慎太郎**

私は、卒業後は地元の八幡平市で就農をします。実家は酪農を営んでおり、現状の規模で継ぐ予定です。また、八幡平市はリンドウの大産地であり、地元のリンドウ農家から一緒にやらないかと誘われているので、将来は花き経営科で学んだ知識を生かしてリンドウ栽培も行いたいです。いずれにしても自分の力だけではまだ自信がないので、地元農家の方に教えていただき、切磋琢磨しながら地域農業の発展にも貢献したいと思っています。



### 2年間を振り返って

花き経営科 2年 **山下 明峰**

私は、農業大学校卒業後、(株)T&G バイオナーサリーへ就職します。農大では花の知識や技術を一から学び、さらに事例研究をはじめ様々な研修や行事を通して学び得たことが多くあり、充実した日々を送ることができました。特に実習で培った、勘や感覚などとして得られた知識は、今後大いに役立つと思います。就職してからは多くの経験を積みながら、頼られる人材になれるよう明るく精一杯頑張りたいです。



### 信頼されるヘルパーを目指して

酪農経営科 2年 **斎藤 大暉**

私は農業大学校卒業後、胆江地区酪農ヘルパー利用組合に就職します。就職後は、農家さんの方に頼られるヘルパー職員になりたいです。目標を達成するには、知識や技術などが今よりもっと必要となるので、仕事しながらレベルアップしていくと共に、挨拶等のコミュニケーションを大切にしていきたいです。ヘルパー職員として酪農経営の向上につながる仕事をしていき、また、信頼されるように頑張っていきたいと思っています。



### 将来の夢に近づくために

酪農経営科 2年 **清水 萌子**

私は学校に残り、日々雇用職員として乳牛と肉牛の牛舎作業や草地管理を行います。ここでは、取得した人工授精師の免許をより自分のものにするため勉強をしていきます。そして、受精卵移植の免許なども取得していきたいと思っています。将来は、自分で牧場経営を始めたいと考えているため、ここでより知識と技術を身につけて次につなげていきたいと考えています。気持ちを新たにこれからも様々なことに挑戦していきます。



### 農大での学びを糧に

肉畜経営科 2年 **大立目 拓也**

私の実家では和牛繁殖経営をしています。私は普通高校出身のため農業がどういうものか知らないまま農大に入学しました。農大生活を通じて新しい知識を得たり、今まで知らなかった事を知ったりすることで農業の魅力に気づかされました。卒業後は地元の宮城県登米市に戻り、家業を継いで父と共同経営します。繁殖牛 100 頭を目標にするとともに、登米市の農業の発展に貢献していきたいと思っています。



### 卒業後の目標

肉畜経営科 2年 **菅原 つぐみ**

私は JA いわて花巻から内定をいただき、4 月から勤務となります。社会人になるにあたり、与えられた役割を果たしていくと共に就職しても勉強を続け、足りない知識・技術を身につけていきたいと思っています。

農業大学校での 2 年間はあっという間で実習を通して様々なことを経験することができました。これまでに学んできたことを活かして地域に貢献していきたいです。

## ◆ 支部便り ◆

## 北上支部

## 無限の可能性にエール！！

北上支部長 千田 敏夫

北上市和賀町で花き栽培と地域活動に情熱を注ぐ、小田嶋天龍さんを紹介します。

天龍さんは農大で花きを専攻し、平成 23 年 4 月に卒業、卒業後自家の農業経営の担い手として就農しました。経営内容は鉢物の花き栽培で、主に母の日用のクレマチスと敬老の日向けのりんどうが栽培品目の 2 本柱でしたが、近年クリスマスローズや多肉植物を新たに導入し、周年出荷を目指して栽培技術の向上と研鑽に努めながら、経営の更なる安定に向けて頑張っています。

また、天龍さんの父親である順一さんは、農大の父母会の会長を務められ、地域にあつては消防団員として、そして防犯隊員としても活躍されており、何事にも積極的に参画して地域のためにも頑張っている姿を目の当たりにしてきました。そんな父親の背中を見てきた天龍さんも、農大卒業と同時に地元消防団に入団し、昨年行われた北上地区支部操法競技会ポンプ車の部門において、天龍さんの所属する部が準優勝と輝

かしい成果を残しました。天龍さんも日夜の練習を支え、今年からは選手として支部大会優勝と県大会出場を目指し、闘志を燃やしています。

また、地域の太鼓団体「座・結鼓(ざ・よいっこ)」のメンバーとして小学 4 年生の頃から活動しており、団体結成 30 周年を迎えるにあたり、記念イベント成功に向け、ばちさばきにも力が入ると話してくれました。

農業関係では 4H クラブに所属し、地域内外のクラブ員との交流を通じて農業にかける想いを共有する仲間づくりに頑張っています。

今回お話を伺って、天龍さんは農業の担い手のみならず、地域の担い手として益々期待と希望の持てる素晴らしい人材になっていくと確信しています。まだまだ若い天龍さんの無限の可能性にもエールを送りたいと思います。

小田嶋 天龍 さん▶



## 遠野支部

## 生活グループ活動を通じて

遠野支部 菊池 明美

私は昭和 55 年度、農業大学校滝沢校舎最後の卒業生です。学校で学んだことよりも、寮生活のほうが思い出深く、同じ釜の飯を食べた同級生とは大げさに言えば離れて暮らしている家族のような存在です。当時は自分の将来の目標と云うものを漠然としか考えておらず特別にやりたい事も見つからないまま卒業してしまいました。現在の大学校の学生さん達はしっかりと将来の目標を持って頑張っているように見えます。私も人生戻れるなら、大学校時代に戻って勉強し直したいです。

私の転機はもうすぐ 40 歳という時、地元の普及センターに大学校時代の先生が所長で赴任して来ました。再開を機にヤングアグリステップアップセミナーという講座に誘って下さいました。ヤングでは無かったのですが概ね OK と云うことで、講座はもとより受講生同士の交流も私にとっては大収穫となり、どんどん友達の輪が広がっていきました。友人とグループ活動を始め、最初は勉強して見たい事をあれこれと模索していましたが、目標も一つに絞りなさいと指導を受

け、私たちは目標に向かって集中して進む事が出来ました。

その後、私たちのグループは、地元の先輩方が所属している生活研究グループに加入させてもらい、組織活動に足を踏み入れました。現状はまた少し変わってきておりますが、組織に所属する事で、仲間との交流からいろんな情報が入り、行動にも繋がっていきます。こうして敬遠していた組織活動の素晴らしさを知りました。今、私は農業、産直での加工品の販売、グループ活動を充実させるため努力を重ねる時期だと感じております。誰にでも何かのきっかけ、転機があるもので、私は次の転機が訪れるまでコツコツ頑張る事にしています。

私の座右の銘としているのは、！！人生とは努力と運とタイミング、チャンスの神様が近づいて来たなら絶対に逃がすな！！です。

菊池 明美 さん▶



## 久慈支部

## 久慈市でほうれん草生産に頑張っている岩手農大OB

久慈支部 外館 則 男

久慈市侍浜町のビニールハウス団地でほうれん草生産に取り組んでいる北村学さん(32)の状況について紹介させていただきます。

北村さんは、高校卒業後数年間民間会社に勤務していましたが、母の死を契機に帰省したとのことです。以前から長男ではありませんが自営したいとの思いが強く、特に農業に魅力を感じ、近くでの農業経営の展開を模索したようです。

これの実現のため、まずは農業技術等の習得を目指し、社会人として農業大学校に入学、平成25年3月に卒業しました。その後隣接する洋野町のほうれん草農家で研修をしていたところ、久慈市が同市侍浜町の山林を開発・造成したビニールハウス団地内で離農者が出て新規の就農者を募集しているとの情報を得て、早速応募し、平成26年9月から同地で2aビニールハウス16棟でのほうれん草生産に取り組みました。ほうれん草生産は、本人、父、姉、パート1人の計4人で、5月から12月まで雨除けほうれん草だけ栽培しているとのことです。家族であっても父と姉へは手伝いでなく最低賃金に見合う額を支払っており、就農

4年経過しましたが、ビニールハウスの一部が湿地などのため、反収が低い状態が続いており経営的には厳しいと言っておりました。

これまでは、新規就農に伴う給付金等を受給していたので、何とか農業経営を継続できているが、これの終了も近いので、自立した農業経営の確立が急務となっていると意気込んでおりました。

経営改善の当面の取り組みは、湿害対策のためビニールハウス周辺への明渠の設置で、父の力を借りて工事に着手予定とのことです。また、今後の生産量増大に伴う袋詰め作業機の導入が不可欠で、何とか対応したいと考えているようで、今後の農業経営推進に当たっては、難問が山積しているように感じましたが、新規就農の際の「農業に魅力を感じる」との気持ちを大切に、沿岸地域での気象条件を生かした、野菜生産農家に育ってほしいものです。

今後の活躍を期待しております。

北村学さん▶



## 2018農大祭 盛大に開催される!

「<sup>はぐくむ</sup>育」～未来に続く鼓動～をテーマとして、恒例の農大祭が平成30年10月27日～28日に開催されました。本年度は、特別イベントとして、学生が栽培した「金色の風」の炊き立てご飯の試食会を行いました。配布前から50名以上の行列ができ、「甘みがあり美味しい」と大好評でした。また、農大職員による特別ミニ公開講座を開催し、多くの皆様に聞いていただくことができました。模擬店では、実習で栽培した米、野菜、果物や花を学生自ら販売し、用意した農畜産物など多くの商品が完売となりました。学習展示は今年も体育館内で行い、多くの来場者に学習成果を見学していただきました。初日は雨が降る中での開催でしたが、学生の若さで悪天候を吹き飛ばし、無事に農大祭を終えることができました。



金色の風試食会



獣害対策ミニ公開講座



模擬店



学習展示

## 東日本農業大学校等意見発表会で最優秀賞に菊池遥香さん！ 続く全国農業大学校等意見発表会でも3位入賞！！

平成31年1月16日～17日に東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会が青森県東北町で開催され、本校からは「意見発表の部」で酪農経営科2年の清水萌子さん、花き経営科1年の菊池遥香さんが、卒業研究の成果を発表する「プロジェクト発表の部」で農産経営科2年の齋藤菜々子さん、野菜経営科2年の東梅友生さん、花き経営科2年の船山直さんが練習の成果を生かし、堂々と発表しました。

審査の結果、「意見発表の部」の最優秀賞に菊池遥香さんが見事選ばれました。岩手農大からは昨年度の「プロジェクト発表の部」最優秀賞（野菜経営科・中里直人さん）に続く快挙です。

### ◇ 意見発表の部 課題名と発表者

- 私の目指す酪農 ～一步でも夢に近づくために人との繋がりを～ 酪農経営科2年 清水 萌子
- エディブルフラワーの魅力をもっとたくさんの人に伝えたい 花き経営科1年 菊池 遥香

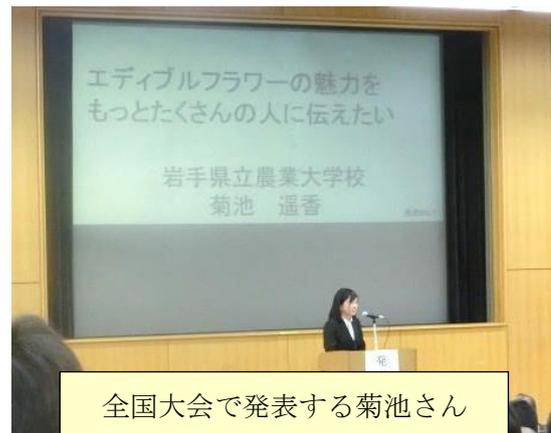
### ◇ プロジェクト発表の部 課題名と発表者

- 酒米「吟ぎんが」への深水かけ流し栽培が心白及び品質に与える影響 農産経営科2年 齋藤 菜々子
- 露地ピーマンにおける小型トンネルとかん水方法の検討 野菜経営科2年 東梅 友生
- 第三の品目確立にむけて ～リンドウ後のダリア定植の可能性～ 花き経営科2年 船山 直

さらに、東日本代表となった菊池遥香さんは、平成31年2月14日～16日に東京都の国立オリンピック記念青少年センターで開催された全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会「意見発表の部」でも3位入賞を果たしました。おめでとうございます！



東日本大会参加者全員で菊池さんを祝福



全国大会で発表する菊池さん

## ホルスタイン共進会でリザーブチャンピオンを獲得！

平成30年4月21日に開催された岩手ふるさと乳牛改良同志会主催の「岩手ふるさと乳牛祭り」において、酪農経営科が出品した「ホワイトスプラッシュロクハラ号」が第5部（3歳未満）の1席を獲得しました。

さらに、各部上位牛から選ばれるチャンピオン戦では、全経産牛中2位に相当する“リザーブチャンピオン”の栄冠に輝きました。

これも一重に、歴代の学生達による永年の改良成果と出品に向けて調教・コンディション調整等に取り組んだ学生達の努力の結果と感じております。

今後も共進会等の活動を通じ、「牛」への情熱と知識を深め、社会に羽ばたく学生達の活躍に期待します。



酪農経営科の1・2年生

## 平成 30 年度岩手県立農業大学校同窓会総会報告（抜粋）

平成 30 年 4 月 20 日に農大本館 2 階会議室で開催された総会で決定した事業計画の概要は次のとおりです。

## 【平成 30 年度事業計画】

本会の目的達成のため、支部活動の促進と会報の内容充実等により組織活動の強化を図るとともに、農業大学校の教育目標を支援する事業を次の通り実施することとしております。

- 1 支部活動の促進（支部活動への助成）
- 2 同窓会会員台帳の整備
- 3 同窓会報の発行（平成 31 年 3 月 1 日）
- 4 農業大学校卒業生交流への支援
- 5 農業大学校事業支援
  - (1) 海外農業研修 30 周年記念式典  
（平成 30 年 6 月 22 日、北上市）
  - (2) オープンキャンパス事業支援  
（平成 30 年 7 月 27 日、8 月 4 日）
  - (3) 本科 2 年生の海外農業研修支援  
（平成 30 年 8 月 27 日～9 月 3 日、米国）
  - (4) 農大祭支援（平成 30 年 10 月 27 日～28 日）
  - (5) 技能五輪全国大会（フラワー装飾）支援  
（平成 30 年 11 月 1 日～6 日、沖縄県）
- 6 農大同窓会全国連盟・東日本同窓会連盟への参加
  - (1) 東日本農大同窓会連盟総会（平成 30 年 6 月 8 日、山形県、会長出席）
  - (2) 農大同窓会全国連盟総会（平成 30 年 7 月 11 日、東京都、会長出席）
- 7 その他
  - (1) 入学式（平成 30 年 4 月 10 日、会長出席）
  - (2) 卒業式（平成 31 年 3 月 6 日、会長出席）

## 平成 30 年度同窓会役員名簿

役 職	氏 名	支 部	役 職	氏 名	支 部
会 長	笹田 昭市	盛岡	理 事	及川 良直	奥州
副会長	高崎 覚志	二戸	理 事	槻山 隆	一関
副会長	林田 勲	気仙	理 事	内舘 勝則	宮古
理 事	田村 忠	岩手	理 事	岩城 明	久慈
理 事	小笠原安見	紫波	監 事	千葉 欣哉	北上
理 事	藤原 勝栄	花巻	監 事	及川久仁江	奥州
理 事	千田 敏夫	北上	事務局長	小原 浩美	奥州
理 事	石関 啓志	遠野	事務局員	佐藤知己、堀間久己	農大



## 平成 31 年 3 月卒業予定者の進路状況について（平成 31 年 2 月末現在）

本年度の卒業生は、本科 41 名ですが、進路の内訳は自家就農 3 名、農業法人等 17 名、農業団体 4 名、農業関連企業 6 名、一般企業 2 名、研修 1 名、公務員等 4 名、進学 2 名、その他 2 名となっております。主な進路先は以下のとおりです。

区 分	進 路 先
就 農	遠野市、八幡平市、宮城県登米市
農業法人等	(株)アーク、(株)イグナルファーム、岩渕削蹄所、(有)かさい農産、(株)菅野農園、(一社)北上市機械化農業公社、葛巻町酪農ヘルパー利用組合、(株)西部開発農産、(株)T&G バイオナーサリー、胆江地区酪農ヘルパー利用組合、那須野ヶ原牧場(株)、(株)馬場園芸、(有)浜田農産
農業団体	JA 秋田ふるさと、JA いわて花巻、JA 新しいわて、NOSAI いわて
農業関連企業	いなほ化工(株)、岩手農協チキンフーズ(株)、(株)花門フラワーゲート、(株)コハタ、(株)フジテック岩手、ミネックス(株)
一般企業	(株)東北通電工、(株)みずかみ
研 修	JA 全農 ET 研究所
公務員等	岩手県立農業大学校、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
進 学	秋田県立大学生物資源科学部、新潟大学農学部